

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	1493800013
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	グループホーム みんなの家 横浜茅ヶ崎東
訪問調査日	平成20年9月5日
評価確定日	平成20年10月15日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者(利用者)の関係を指します。

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

1. 評価結果概要表

作成日 2008年9月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1493800013		
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホーム みんなの家 横浜茅ヶ崎東		
所在地	横浜市都筑区茅ヶ崎東 5-5-18 (電話) 045-949-2157		
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	〒220-0074 神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成20年9月5日	評価確定日	平成20年10月15日

【情報提供票より】(20年 8月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 7 月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 7 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 10人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建の	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,350 円	

(4) 利用者の概要(8月 21日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 82 歳	最低	72 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	横浜新都市脳神経外科病院、新横浜中央クリニック、デンタルオフィス横浜
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> ・事業所は横浜市営地下鉄から徒歩13分の緑に囲まれた閑静な住宅地にあり、外観は民家風な設計の木造建築で、落ち着いた佇まいの施設である。 ・「いつも一緒に 笑いあって 助け合って 地域とふれあって 自分らしく暮らす」を理念に掲げ、一人ひとりの今ある能力を積極的に生かし、利用者同士が助け合う、活動的な事業所づくりをしている。 ・外出する機会を多くし、駅周辺までを範囲に買い物、理・美容などで地元商店との交流を深め、認知症への理解を得ている。 ・リフト入浴設備を設置し高介護度に対応できる入浴体制になっている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月から新管理者の下で新しい方針を掲げ、職員全員で取り組んでいる。 ・「利用者の望む生活」を実現することを目指し、利用者が積極的に活動し、外に出て地域の方と触れ合い、生活の変化と生きがいを感じることを最重点の取り組みとしている。
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員に勉強会で意義と内容を説明し、職員の自己評価の結果を一か月後に持ち寄り、管理者から再度の説明と再検討を補足し、フロア一長を中心に検討会を開催し最後に管理者がまとめた。
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会長、民生委員、地域包括支援センター、家族、利用者、事業所で構成し、2か月に1回を目標に推進会議を開催している。町内会長が会議の運営に大変協力的である。 ・事業所の活動内容の説明の後、町内の情報、イベントへの誘いなど自由な意見交換があり、地域密着を目指す事業所の運営に役立っている。
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家族対応ノート」をつくり、電話や、来訪時に話し合った要望や応接内容を記入し、情報を共有し統一した対応をしている。 ・利用者は積極的に家事を分担しており、「お世話になっている」間柄ではなく、何でも遠慮なく言える家族として生活している。
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物、レストラン、理・美容室は地元商店に出向き、認知症に対する理解と協力を得て交流を深めている。 ・近くに民家、商店が少ないので、駅周辺の商店街まで散歩のテリトリーとし、出会い、ふれあいを楽しんでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

▼ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・全職員で意見を出し合って、日常の行動に結びつく理念をつくりあげた。 ・「いつも一緒に、笑い合って、助け合って、地域とふれあって、自分らしく暮らす」を理念に掲げ、筆書きで掲示し職員に周知している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・皆で作上げたできて間もない理念なので、利用者と職員が大事に共有し合っている。 ・日常、利用者も含めてお互いに理念に照らし、いつも一緒に生活するよう心がけている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・七夕の笹竹、流しソーメンの太い竹など近隣の地主が気軽に提供してくれる。 ・町内会の回覧板は利用者と一緒に届けている。地域行事に積極的に参加し、理・美容は地元の美容院に全員で行き、散歩の途中でレストランに寄るなど普通の家庭と同じ付き合いをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・全職員に勉強会で意義と内容を説明し、職員の自己評価の結果を一か月後に持ち寄り、管理者から再度の説明と再検討を補足し、フロア一長を中心に検討会を開催し最後に管理者がまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・町内会長、民生委員、地域包括支援センター、家族、利用者、事業所で構成し、2か月に1回を目標に開催している。 ・事業所の活動内容の説明の後、町内の情報、イベントへの誘いなど自由な意見交換があり、地域密着を目指す事業所の運営に役立っている。		

みんなの家 横浜茅ヶ崎東

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・生活保護の入居者の状況報告を兼ねて担当職員との連絡を取り合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・毎月の費用清算書の送付時に、最近の暮らしぶりの写真と手紙を同封している。 ・家族との面会時には近況を報告し、要望を聞くようにしている。 ・健康状態など小さな変化も家族に伝えるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情受付窓口は、重要事項説明書に記載し、事業所の玄関に掲示している。 ・日常の家族への電話連絡や、来訪時の面談で家族の意向を把握し、家族ノートに記録し運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・利用者は「職員のお世話になっている」のではなく「自分たちでできることは分担し助け合って共同生活をしている」を基本にしている。 ・1・2階の交流、外出など変化のある暮らしを心がけ、利用者には不安を与えることがないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員は新人研修で管理者から理念や基本的な行動の指導を受け、OJTで事業所のやり方を学んでいる。 ・法人による研修体制が整備され、職員の能力に応じた研修が徹底している。 ・横浜グループホーム(GH)連絡会による研修にも積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・県のGH協議会に加入し互いのネットワークを作り、相互訪問、見学会、意見交換会、セミナー等を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・事前に管理者とフロア長が自宅を訪問し、また、事業所に何度か遊びに来てもらい、馴染んでから入居している。 ・緊急入居の場合は、面倒見のよい既利用者の近くに配置するなど、相互の性格を考えて対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・積極的に仕事を依頼し、全て共同作業を基本にしている。利用者が生活の主役として、役に立つ人間として生き活きと生活している。 ・理念に基づき共に過ごすを実践している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・「一緒に過ごす」「利用者が主役」の生活を心がけている。豊富な会話の中で職員は利用者の意向を把握している。 ・話の困難な人も一緒に過ごすことで表情やしぐさなどを捉え、利用者の思いを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・日常一緒に行動することで把握した情報を、「活動記録」「個人記録」に記載し申し送りで説明し、常に情報を共有してチームケアに徹している。 ・全員が理念に照らしてチームケアを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・3か月毎の短期目標をたてチェックを行っている。 ・全体の見直しは6か月毎に行っている。 ・状況が変化した場合は、家族と連携をとり随時見直し現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・病院の受診に職員が同行している。 ・外部の理容院、美容院へは、本人・家族の希望に応じ職員が同行している。 ・利用者の希望に応じて買い物に同行している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・家族の同意を得て、協力医が利用者のかかりつけ医になっている。 ・状況に応じて適切な医療が受けられるよう協力医療機関と連携している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・入居時、重度化や終末期に対して、家族・及び利用者の意向を確認し同意を得ている。 ・医療連携体制加算の指定を受け、将来のターミナルケアも視野に、現状の医療サポートの充実に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・利用者の誇りを損なわない言葉遣いを心がけ、名前で呼びかけている。 ・個人記録の扱いは慎重に行い、鍵のかかった書庫に保管している。 ・職員とは、採用時にプライバシーの保護・尊重に関する契約書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者が望む生活のリズムを大切にしている。 ・利用者ごとに活動記録をつけ、今ある能力を日常生活で、最大限に発揮できるよう支援している。外へ出られなかった利用者が、散歩を楽しめるようになり、活動範囲も広がってきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・社内の栄養部による調理があるが、ご飯とみそ汁は利用者と職員と一緒に作っている。 ・配膳、後片付けも能力に応じて行っている。 ・イベント食や手作りケーキ作り、家族会を招いての食事会では、献立、買物、調理、後片付けを職員と一緒に楽しみながら行っている。 		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・希望すれば毎日入浴できる。お風呂セットを利用者ごとに作り、入りたいときすぐに楽しめるよう工夫している。1階には入浴リフトを備えている。 ・入浴を嫌う利用者には、タイミングをみて声をかけ入浴を促している。 ・羞恥心を感じる利用者には同性介助をしている。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者各人に積極的に能力に合った役割を依頼し、役に立っている喜びを感じてもらっている。家事を楽しんでいる男性利用者もいる。 ・外に出て体操したり、おやつを外で食べたり、外気にふれる生活を支援している。 		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望や体調に合わせて、事業所の周りを散歩している。 ・事業所の近くだけでなく、歩いて13分ほどの最寄り駅まで出かけ、美容室を利用したり、外食を楽しんで、地域の人とのふれあいの場になっている。 		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・窓や居室は施錠していない。中から鍵がかけられるが、ノックや声掛けをして様子を見ている。 ・玄関は防犯上鍵をかけているが、外出希望のときはすぐに開けている。 ・階段の昇降口の扉は鍵をかけず、自由に降りられる。、職員の気配りで危険を防いでいる。 		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・火災を想定して、管理者がリーダーになり避難訓練を行っている。年4回の訓練を実施し、外階段を使い、駐車場までの避難所要時間を測定している。 ・近くと同じ法人の事業所と連携体制ができています。 ・非常時用の食糧、飲料水を半日分備蓄している。 		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事のメニュー、食材は業者に委託している。栄養価はメニュー表で把握している。 ・食事の摂取量を記録し、チェックしている。 ・水分の摂取にも注意し、管理が必要な利用者については摂取量を把握し、記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居間は明るく、窓辺から野菜畑の緑が見え、日当たりが良い。 ・自作の書、季節の花や旅行や行事の写真を掲示し、生活感、季節感を出している。 ・サンルームを思わせる広いコーナーに椅子を置いて、一人でもくつろげる場所づくりをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ベット、整理ダンスは事業所の備え付けであるが、仏壇や鏡、写真、思い出の物を置いて、個性ある居室にしている。 ・窓が広く開放感があり、風通し良く、緑地が見える明るい居室になっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	GHみんなの家横浜茅ヶ崎東
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	横浜市都筑区茅ヶ崎東5-5-18
記入者名 (管理者)	飯島基子
記入日	平成 20 年 8 月 21 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に地域に出かけていき買い物や理美容は地域の店舗を利用している。 地域とのふれあいを大切にしている。 	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> スタッフ全員で話し合い、ホームの理念を作りあげた。 ”いつも一緒に”をキーワードに日々取り組んでいる。 スタッフ間で日常的に理念について確認がされている。 	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 外出時や行事等の写真をホーム内に掲示し家族面会時に理念を伝えている。 家族会を積極的に行っている。 	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> 外出時(散歩や買い物時)や通勤時に挨拶をしている。 散歩中の方が玄関先にて休んでいくことがある。 近隣の農家の方との交流があり、農作業を教えていただいたり野菜の頂き物もある。 流しソーメン用にと竹を調達してもらえる。 	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<ul style="list-style-type: none"> 町内会に入っている。 回覧板は利用者と共に回している。 地域の行事(夏祭り)に参加している。 芸能文化大会への誘いがあり見学した。 	○ 共催行事を提案していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・運営推進会議の中で事業所が役立つことがないか問いかけている。	○	地域の方との交流の中から要望を引き出せるよう努力していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・スタッフ全員で評価の意義・必要性を学び、自己評価を行った。 ・質の向上に向けて全員で意識することが出来た。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に一回を目安に開催している。 ・メンバーからの意見を反映する事が出来ている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・生保担当者と必要に応じて連絡を取り合っている。 ・事故があった時は直ちに報告している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・内部研修があり学ぶ機会がある。	○	・勉強会を開き、全スタッフが学んでいく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・全スタッフが自覚を持って対応している。 ・利用者への対応に問題があればすぐ話し合い、改善策を考え実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・契約内容の伝達を確実に言い、情報の共有がなされている。 ・家族の話を十分に聞いたうえで契約を行っている。 	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情投書箱を設置している。 ・行事の後、利用者に感想、意見等を聞いている。 	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月写真を添えて、ホームでの暮らしぶりを伝える一言通信を送っている。 ・面会時には近況を伝えている。 ・健康状態に変化があった時にはその都度報告している。 ・金銭の用途を明確にし、定期的に報告している。 	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会を積極的に開いている。 ・その中で出た意見や要望は取り入れている。 ・面会時や電話での意見、要望は記録に残し早急に対応している。 	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回フロア会議の中で意見や提案を出す機会がある。 ・出た意見を元に改善している。 ・必要に応じ、面談の機会を設け、対応している。 	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況に合わせた勤務の調整を話し合いにより行っている。 ・緊急時には協力体制がある。 ・個別ケアや行事等では人手を厚くする人員配置がなされている。 	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 2階の異動においては日常的な交流により馴染みの関係が保たれており、利用者へのダメージが少ない。 ・個人面談をより多く持ち離職につながらない様、話し合っている。 	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホーム内で必要に応じた研修や勉強会を定期的に行い、全職員が参加している。 ・社内研修や外部研修に参加した後は、ホーム内での伝達研修を行っている。 ・内外研修の案内が目につくところに掲示されている。 	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同業者が見学にくる機会が多い。 ・同業者向けに講義を行い、活発な意見交換があった、またその後、訪問や交流がある。 ・今後も座談会や見学会を予定している。 ・GH協会に入ってネットワーク作りをしている。 	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フロア会議を利用し、活発な意見交換が出来ている。 ・個別の面談により職員の話が聞いている。 ・なんでも思った事を話せる雰囲気になっている。 ・息抜き場(喫煙所)や時間(休憩時間)がある。 	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談を行い、目標(長期、短期)設定をしている。 ・職員が得意とするものを活かし、担当係りとなり日常の介護の仕事に取り入れている。 	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の意向を大切にし利用者の視点で対応していく事を努めている。 ・会話、行動、表情等から汲み取る努力をしている。 	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は常に気軽にご家族の方々と話しが出来るよう雰囲気作りを努めている。 ・訴えのあった内容は会議にて話し合い検討している。 	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談内容をまず受け止め、検討し対応している。 ・家族、本人希望の理美容、セラピーの利用をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・利用者同士の関係性や特性を見極めながらゆるやかにサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・理念に掲げている。 ・一日の生活流れの中で常に一緒に行っている(日常家事)その中から職員は学びがある。 ・それぞれの得意な役割の中、助け合いがある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族と連絡を取り合い本人の希望を相談しながら一緒に考えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・本人と家族の接する機会を増やすように家族会やホーム行事等で橋渡しをしている。 ・疎遠な家族へは、ホームでの暮らしぶりを伝え本人と家族のよりよい関係になる様、支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・気軽に面会や外出が出来る様に時間の制限を緩やかにしている。 ・知人、友人が訪ねて来たときは橋渡しになる様努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・それぞれの得意分野での助け合い支えあいがある。 ・利用者の会話の橋渡しをしたりと関わり合いを持てる様に支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退居した家族との交流がある。 ・他の施設を探している時には相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・コミュニケーションを充分取りながら意向や望む生活を聞き取り、記録に残しケアプランにつなげている。 ・表現が困難な利用者においては表情や反応を見ながら汲み取るよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人や家族からの情報を提供してもらうことにより生活歴や暮らしぶりが把握できている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・様子観察し、その時々々の状況を記録している。 ・記録を伝達し情報を共有している。 ・どのような事でもまずやって頂き、有する能力を見極めるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人の望む生活、思いや意向は何かを考えながらカンファレンスを行っている。 ・カンファレンスにより情報収集、情報分析、情報伝達を行っている。 ・試しの期間を経てから計画作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・定期的に評価、見直しを行っている。 ・状態の変化があった時には直ぐに見直している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランに添ったケアを実施し、利用者の言葉、表情、反応等を記録している。 ・連絡ノートや申し送り、カンファレンスで情報交換や情報共有をしている。 		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の要望に応じた外出を行っている。 ・本人や家族の希望により理美容の連れ出しをしている。 ・往診医がいる。 		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なボランティアの訪問がある(腹話術) ・防災避難訓練を行っている。 ・中学校からの体験学習を受け入れている。 		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の意思を確認し、他のサービスの活用ができるか検討している。 	○	これから関係を築いていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で協働している。 		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の了承の下、かかりつけ医があり利用者も顔なじみになっている。 ・事前に利用者の体調や訴えを把握し報告している。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・専門医の継続的受診はないが、今後必要に応じ対応していく。	○	認知症の専門医との関係作りに努める。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・定期的な訪問がある。 ・日常的な健康管理がされている。 ・専門知識(感染症)についての勉強会を行ってもらった。 ・訪問時、職員は気軽に利用者の健康に関する相談が出来、アドバイスを受けている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院時はホームでの生活の情報を伝えている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・本人より終末期に望むことをアセスメントしている。 ・家族面会時等、意向を聞いている。 ・記録に残し情報を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・重度や終末期になった時を想定した話し合いを持っている。 ・受け入れる体制作りをしている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・今のところ転居はない。	○	今のところ転居はないが、そういった状況になった時は情報提供していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・常に尊敬し対応している。 ・言葉に配慮し、相手の立場にたった声かけをするように心がけている。 ・個人情報鍵のかかった書庫に保管している。 	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・常に傾聴している。 ・無理じいにならないように気をつけている。 ・自己決定を大切にしている。 	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が思い込みで行動することのない様子を気をつけている。 ・本人が何をやりたいかどのように過ごしたいのか希望を聞いている。 	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで使っている化粧品でお洒落を楽しんでいる。 ・理、美容室はいつ、どこのお店に行ったかの記録をしている。その中から本人の気に入った店を探り、継続している。 	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の能力に応じテーブル拭き、盛り付け、配膳、片付け等を一緒に行っている。 ・楽しい雰囲気作りをしながら職員も一緒に食事をしている。 	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・手作りおやつを増やし楽しみながら味わう事を大切にしている。 ・週一回移動パン屋が来ている、その際一人ひとりに選んでもらっている。 ・好きなジュースやおやつを買出しを行っている。 ・たばこは本人納得の上、ルールを決め吸っている。 	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・チェック表で排泄パターンを把握し時間による声かけや誘導をしている。 ・さりげない声かけの工夫もある。 ・トイレの場所がわからない人には貼紙や暖簾等で工夫している。 		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・羞恥心のある利用者には同性介助をしている。 ・曜日や時間を決めることなく出来る限り本人の希望を聞き入れている。 ・利用者と職員のコミュニケーションの場となっており入浴を楽しめる場となっている。 		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた雰囲気作りをしている。 ・就寝時間を強制することはない、一人一人のタイミングで休息して頂いている。 ・日中の活動を活発にし、良眠につなげている。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に望んでいることを傾聴し能力に応じた役割分担にて達成感や、やりがいを感じて頂いている。 ・散歩や買物といった外出が気晴らしや気分転換になっている。 		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭の管理が出来る人は自分でお金持っている人もいる。また買物時はその自分の使い慣れた財布からお金を出し清算している。 ・買物に行ったときは見守りの中、支払いをしてもらう事もしている。 		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の希望や体調に合わせて、散歩や買物、外出等積極的に行っている。 ・理美容は地域の店舗を利用し外出の機会を増やしている。 		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望を取り入れた外出を行っている。 ・家族とともに外出、外泊もされている。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望があれば家族への電話が出来るようになっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・笑顔で対応し、気持ちよく過ごして頂けるように心掛けている。 ・面会時間は柔軟に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・会議でよく話し合っている。 ・意識して取り組んでいる。 ・身体拘束となる行為がされていないかチェックシートを使い、定期的に確認している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中、窓や居室には鍵をかけていない。 ・防犯上玄関には鍵をかけているが外出希望者があればすぐに開錠している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・利用者の所在を常に意識するように努力している。 ・職員同士の声かけにより利用者の所在を確認しあっている。 ・職員は全体を見守りやすい位置を考えている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・全てを管理するのではなく一人一人の能力に合わせ対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・事故が起きた時はすぐ報告書を書き原因を分析している。 その上で話し合いにより改善策を検討し実行している。 ・安全対策委員による勉強会や事例検討会がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・急変や事故発生時はスタッフも動揺すると考えられるので緊急時ダイヤルは電話機の側の見やすい場所に掲示してある。 ・マニュアルがある。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・避難訓練を行っている。 ・近隣ホームと連携体制が出来ている。	○	夜勤時を想定して訓練や消火訓練を行う。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・面会時や電話等で状態を報告し対応策を充分話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・バイタルチェックに留意し、かつ様子観察に努め異変があれば職員間で話し合い、掛かりつけ医に報告し指示をあおいでいる。 ・生活記録や申し送りにて情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の変更があった時は連絡ノートに記入している。 ・医師からの診察、処方報告指示書を掲示し職員全員が周知できるようにしている。 ・症状の変化や気付いた点は依頼書に書き込むようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・水分補給をこまめに促している。 ・野菜や乳酸菌等を摂取して頂くよう声かけしている。 ・散歩や運動を積極的に取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後、声かけや誘導をし清潔を保持している。 ・うまく出来ない人へ、さり気なく介助している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事量は記録し、十分な栄養が取れているかチェックしている。 ・水分摂取に留意すべき人に対し個別に記録にしている。 ・食事やお茶の時間は職員も同席し声かけをしている。 		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会を行い、正しい知識を学んでいる。 ・利用者、職員共に外出後手洗いうがいをしている。 ・ホーム内の清掃に力を入れている。 ・職員はいつでも見やすい所にマニュアルがある。 		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・冷蔵庫内の掃除を定期的に行っている。 ・毎食後布巾の消毒を行っている。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に花を飾り、親しみやすい雰囲気になるよう工夫している。 ・ベンチを置いており利用者や家族、近隣の方の憩いの場となっている。 		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・行事やホームでの様子を撮った写真を楽しく飾っている。 ・フロアにソファを置き、くつろげる場所を作っている。 ・季節の花を飾ったり暖簾を掛けたりしている。 		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファの位置を工夫し、利用者同士で談話が出来ている。 ・一人で過ごしたい人には他の人と離れた場所に椅子を置いてある。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・仏壇やTV、写真等馴染みの物や本人にとって必要な物を置いている。 ・レクでの作品は本人の意思により飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・掃除の時に換気している。 ・においが感じた時は随時換気している。 ・温度調節には気をつけている。 ・頻回に訪室し居室内温度を調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・フロア、トイレ、浴室には手すりを付けている。 ・車椅子利用者には座る位置やフロア内移動における動線に配慮している。 ・家具等の物理的な環境だけでなく、心理的な環境にも留意し工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・居室の分からない人には能力に応じて表記している。 ・トイレには暖簾をかけ目印になるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・お花や野菜を植え毎日の水やりの習慣がある。 ・洗濯物をベランダや外に干している。 ・玄関先でおやつや昼食を摂ることもある。 ・行事でバーベキューや流しソーメンや花火を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①常に”スタッフも利用者も一緒に楽しむ”をモットーにしています。
- ②利用者のやりたい事や望む生活を常に探りながら支援しています。
- ③外出の機会を積極的に取り入れ、地域とのふれあいを大切にしています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	GHみんなの家横浜茅ヶ崎東
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	横浜市都筑区茅ヶ崎東5-5-18
記入者名 (管理者)	飯島基子
記入日	平成 20年 8月 21 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に地域に出かけていき買い物や理美容は地域の店舗を利用している。 地域とのふれあいを大切にしている。 	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> スタッフ全員で話し合い、ホームの理念を作りあげた。 ”いつも一緒に”をキーワードに日々取り組んでいる。 スタッフ間で日常的に理念について確認がされている。 	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 外出時や行事等の写真をホーム内に掲示し家族面会時に理念を伝えている。 家族会を積極的に行っている。 	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> 外出時(散歩や買い物時)や通勤時に挨拶をしている。 散歩中の方が玄関先にて休んでいくことがある。 近隣の農家の方との交流があり、農作業を教えていただいたり野菜の頂き物もある。 流しソーメン用にと竹を調達してもらえる。 	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<ul style="list-style-type: none"> 町内会に入っている。 回覧板は利用者と共に回している。 地域の行事(夏祭り)に参加している。 芸能文化大会への誘いがあり見学した。 	○ 共催行事を提案していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・運営推進会議の中で事業所が役立つことがないか問いかけている。	○	地域の方との交流の中から要望を引き出せるよう努力していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・スタッフ全員で評価の意義・必要性を学び、自己評価を行った。 ・質の向上に向けて全員で意識することが出来た。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に一回を目安に開催している。 ・メンバーからの意見を反映する事が出来ている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・生保担当者と必要に応じて連絡を取り合っている。 ・事故があった時は直ちに報告している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・内部研修があり学ぶ機会がある。	○	・勉強会を開き、全スタッフが学んでいく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・全スタッフが自覚を持って対応している。 ・利用者への対応に問題があればすぐ話し合い、改善策を考え実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約内容の伝達を確実に言い、情報の共有がなされている。 ・家族の話を十分に聞いたうえで契約を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情投書箱を設置している。 ・行事の後、利用者に感想、意見等を聞いている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月写真を添えて、ホームでの暮らしぶりを伝える一言通信を送っている。 ・面会時には近況を伝えている。 ・健康状態に変化があった時にはその都度報告している。 ・金銭の用途を明確にし、定期的に報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会を積極的に開いている。 ・その中で出た意見や要望は取り入れている。 ・面会時や電話での意見、要望は記録に残し早急に対応している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月一回フロア会議の中で意見や提案を出す機会がある。 ・出た意見を元に改善している。 ・必要に応じ、面談の機会を設け、対応している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・利用者の状況に合わせた勤務の調整を話し合いにより行っている。 ・緊急時には協力体制がある。 ・個別ケアや行事等では人手を厚くする人員配置がなされている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・1, 2階の異動においては日常的な交流により馴染みの関係が保たれており、利用者へのダメージが少ない。 ・個人面談をより多く持ち離職につながらない様、話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホーム内で必要に応じた研修や勉強会を定期的に行い、全職員が参加している。 ・社内研修や外部研修に参加した後は、ホーム内での伝達研修を行っている。 ・内外研修の案内が目につくところに掲示されている。 	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同業者が見学にくる機会が多い。 ・同業者向けに講義を行い、活発な意見交換があった、またその後、訪問や交流がある。 ・今後も座談会や見学会を予定している。 ・GH協会に入ってネットワーク作りをしている。 	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フロア会議を利用し、活発な意見交換が来ている。 ・個別の面談により職員の話を聞いている。 ・なんでも思った事を話せる雰囲気になっている。 ・息抜きの場(喫煙所)や時間(休憩時間)がある。 	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談を行い、目標(長期、短期)設定をしている。 ・職員が得意とするものを活かし、担当係りとなり日常の介護の仕事に取り入れている。 	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の意向を大切にし利用者の視点で対応していく事を努めている。 ・会話、行動、表情等から汲み取る努力をしている。 	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は常に気軽にご家族の方々と話しが出来るよう雰囲気作りに努めている。 ・訴えのあった内容は会議にて話し合い検討している。 	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談内容をまず受け止め、検討し対応している。 ・家族、本人希望の理美容、セラピーの利用をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・利用者同士の関係性や特性を見極めながらゆるやかにサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・理念に掲げている。 ・一日の生活流れの中で常に一緒に行っている(日常家事)その中から職員は学びがある。 ・それぞれの得意な役割の中、助け合いがある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族と連絡を取り合い本人の希望を相談しながら一緒に考えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・本人と家族の接する機会を増やすように家族会やホーム行事等で橋渡しをしている。 ・疎遠な家族へは、ホームでの暮らしぶりを伝え本人と家族のよりよい関係になる様、支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・気軽に面会や外出が出来る様に時間の制限を緩やかにしている。 ・知人、友人が訪ねて来たときは橋渡しになる様努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・利用者同士の居室の訪問がある。 ・それぞれの得意分野での助け合い支えあいがある。 ・利用者の会話の橋渡しをしたりと関わり合いを持てる様に支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退居した家族との交流がある。 ・他の施設を探している時には相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・コミュニケーションを充分取りながら意向や望む生活を聞き取り、記録に残しケアプランにつなげている。 ・表現が困難な利用者においては表情や反応を見ながら汲み取るよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人や家族からの情報を提供してもらうことにより生活歴や暮らしぶりが把握できている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・様子観察し、その時々々の状況を記録している。 ・記録を伝達し情報を共有している。 ・どのような事でもまずやって頂き、有する能力を見極めるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人の望む生活、思いや意向は何かを考えながらカンファレンスを行っている。 ・カンファレンスにより情報収集、情報分析、情報伝達を行っている。 ・試しの期間を経てから計画作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・定期的に評価、見直しを行っている。 ・状態の変化があった時には直ぐに見直している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランに添ったケアを実施し、利用者の言葉、表情、反応等を記録している。 ・連絡ノートや申し送り、カンファレンスで情報交換や情報共有をしている。 		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の要望に応じた外出を行っている。 ・本人や家族の希望により理美容の連れ出しをしている。 ・往診医がいる。 		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なボランティアの訪問がある(腹話術) ・防災避難訓練を行っている。 ・中学校からの体験学習を受け入れている。 		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意思を確認し、他のサービスの活用ができるか検討している。	○	これから関係を築いていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で協働している。 		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の了承の下、かかりつけ医があり利用者も顔なじみになっている。 ・事前に利用者の体調や訴えを把握し報告している。 		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>・専門医の継続的な受診はないが、今後必要に応じ対応していく。</p>	○	<p>認知症の専門医との関係作りに努める。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>・定期的な訪問がある。 ・日常的な健康管理がされている。 ・専門知識(感染症)についての勉強会を行ってもらった。 ・訪問時、職員は気軽に利用者の健康に関する相談が出来、アドバイスを受けている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>・入院時はホームでの生活の情報を伝えている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・本人より終末期に望むことをアセスメントしている。 ・家族面会時等、意向を聞いている。 ・記録に残し情報を共有している。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>・重度や終末期になった時を想定した話し合いを持っている。 ・受け入れる体制作りをしている。</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>・今のところ転居はない。</p>	○	<p>今のところ転居はないが、そういった状況になった時は情報提供していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・常に尊敬し対応している。 ・言葉に配慮し、相手の立場にたった声かけをするように心がけている。 ・個人情報鍵のかかった書庫に保管している。 	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・常に傾聴している。 ・無理じいにならないように気をつけている。 ・自己決定を大切にしている。 	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が思い込みで行動することのない様子を気をつけている。 ・本人が何をやりたいかどのように過ごしたいのか希望を聞いている。 	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで使っている化粧品でお洒落を楽しんでいる。 ・理、美容室はいつ、どこのお店に行ったかの記録をしている。その中から本人の気に入った店を探り、継続している。 	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の能力に応じテーブル拭き、盛り付け、配膳、片付け等を一緒に行っている。 ・楽しい雰囲気作りをしながら職員も一緒に食事をしている。 	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・手作りおやつを増やし楽しみながら味わう事を大切にしている。 ・週一回移動パン屋が来ている、その際一人ひとりに選んでもらっている。 ・好きなジュースやおやつを買出しを行っている。 ・たばこは本人納得の上、ルールを決め吸っている。 	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・チェック表で排泄パターンを把握し時間による声かけや誘導をしている。 ・さりげない声かけの工夫もある。 ・トイレの場所がわからない人には貼紙や暖簾等で工夫している。 		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・羞恥心のある利用者には同性介助をしている。 ・曜日や時間を決めることなく出来る限り本人の希望を聞き入れている。 ・利用者と職員のコミュニケーションの場となっており入浴を楽しめる場となっている。 		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた雰囲気作りをしている。 ・就寝時間を強制することはない、一人一人のタイミングで休息して頂いている。 ・日中の活動を活発にし、良眠につなげている。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に望んでいることを傾聴し能力に応じた役割分担にて達成感や、やりがいを感じて頂いている。 ・散歩や買物といった外出が気晴らしや気分転換になっている。 		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭の管理が出来る人は自分でお金持っている人もいる。また買物時はその自分の使い慣れた財布からお金を出し清算している。 ・買物に行ったときは見守りの中、支払いをしてもらう事もしている。 		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の希望や体調に合わせて、散歩や買物、外出等積極的に行っている。 ・理美容は地域の店舗を利用し外出の機会を増やしている。 		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望を取り入れた外出を行っている。 ・家族とともに外出、外泊もされている。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望があれば家族への電話が出来るようになっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・笑顔で対応し、気持ちよく過ごして頂けるように心掛けている。 ・面会時間は柔軟に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・会議でよく話し合っている。 ・意識して取り組んでいる。 ・身体拘束となる行為がされていないかチェックシートを使い、定期的に確認している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中、窓や居室には鍵をかけていない。 ・防犯上玄関には鍵をかけているが外出希望者があればすぐに開錠している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・利用者の所在を常に意識するように努力している。 ・職員同士の声かけにより利用者の所在を確認しあっている。 ・職員は全体を見守りやすい位置を考えている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・全てを管理するのではなく一人一人の能力に合わせ対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・事故が起きた時はすぐ報告書を書き原因を分析している。 その上で話し合いにより改善策を検討し実行している。 ・安全対策委員による勉強会や事例検討会がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・急変や事故発生時はスタッフも動揺すると考えられるので緊急時ダイヤルは電話機の側の見やすい場所に掲示してある。 ・マニュアルがある。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・避難訓練を行っている。 ・近隣ホームと連携体制が出来ている。	○	夜勤時を想定して訓練や消火訓練を行う。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・面会時や電話等で状態を報告し対応策を充分話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・バイタルチェックに留意し、かつ様子観察に努め異変があれば職員間で話し合い、掛かりつけ医に報告し指示をあおいでいる。 ・生活記録や申し送りにて情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の変更があった時は連絡ノートに記入している。 ・医師からの診察、処方報告指示書を掲示し職員全員が周知できるようにしている。 ・症状の変化や気付いた点は依頼書に書き込むようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・水分補給をこまめに促している。 ・野菜や乳酸菌等を摂取して頂くよう声かけしている。 ・散歩や運動を積極的に取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後、声かけや誘導をし清潔を保持している。 ・うまく出来ない人へ、さり気なく介助している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事量は記録し、十分な栄養が取れているかチェックしている。 ・水分摂取に留意すべき人に対し個別に記録にしている。 ・食事やお茶の時間は職員も同席し声かけをしている。 		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会を行い、正しい知識を学んでいる。 ・利用者、職員共に外出後手洗いうがいをしている。 ・ホーム内の清掃に力を入れている。 ・職員はいつでも見やすい所にマニュアルがある。 		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・冷蔵庫内の掃除を定期的に行っている。 ・毎食後布巾の消毒を行っている。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に花を飾り、親しみやすい雰囲気になるよう工夫している。 ・ベンチを置いており利用者や家族、近隣の方の憩いの場となっている。 		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・行事やホームでの様子を撮った写真を楽しく飾っている。 ・フロアにソファを置き、くつろげる場所を作っている。 ・季節の花を飾ったり暖簾を掛けたりしている。 		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファの位置を工夫し、利用者同士で談話が出来ている。 ・一人で過ごしたい人には他の人と離れた場所に椅子を置いてある。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・仏壇やTV、写真等馴染みの物や本人にとって必要な物を置いている。 ・レクでの作品は本人の意思により飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・掃除の時に換気している。 ・においが感じた時は随時換気している。 ・温度調節には気をつけている。 ・頻回に訪室し居室内温度を調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・フロア、トイレ、浴室には手すりを付けている。 ・車椅子利用者には座る位置やフロア内移動における動線に配慮している。 ・家具等の物理的な環境だけでなく、心理的な環境にも留意し工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・居室の分からない人には能力に応じて表記している。 ・トイレには暖簾をかけ目印になるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・お花や野菜を植え毎日の水やりの習慣がある。 ・洗濯物をベランダや外に干している。 ・玄関先でおやつや昼食を摂ることもある。 ・行事でバーベキューや流しソーメンや花火を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①常に”スタッフも利用者も一緒に楽しむ”をモットーにしています。
- ②利用者のやりたい事や望む生活を常に探りながら支援しています。
- ③外出の機会を積極的に取り入れ、地域とのふれあいを大切にしています。